



54歳、リタイア後の準備始めたい ファンド450万円は評価損が発生 もう失敗したくない

54歳の会社員男性。ひとり息子で独立し、妻(50)と2人暮らしになって、いよいよリタイア後を支える資産の準備に本腰を入れようと考えています。50代半ばはさしかかり、「絶対に失敗してはいけない」と思っています。

リスクのある金融商品への投資は数年前から始めました。投資総額の時価は現在、保有する金融資産全体の8割程度。具体的には日本株・外国債券・海外不動産投資信託に8分の1ずつ投資する「バランスファンド」800万円と、新興国の株式に投資する「ファンド1500万円を保有しています。これらのファンドは評価損を抱えています。一方、当面は使う予定のない預金の大半を個人向け国債など低リスクの投資先につぎ込む予定です。賢明な判断と言えますか？

いっぺんに買わない ■ 追加投資でバランスとる手も

資産「長期運用」という姿勢が重要だ。この機で再び説明してきまして。実際に運用する際には、具体的に次の2点に、より注目していただきたい。

まずは、投資時期の分散です。分散投資の「分散」は、投資対象や地域に限らず、債券と株式と不動産といった投資対象の分散、国内と海外、海外でも先進国と新興国といった地域の分散に加え、投資時期を分散させる。つまり、「いっぺんに買わない」ということです。

投資対象となる市場は日々動いています。時には昨年のような大暴落も起こります。昨年1年間で日本株全体は4割以上も価格が下落しました。もし2007年末に資産の多くをいっぺんに投資していたら、今年になって価格が4割上昇しても、元には戻りません。7%上昇してやっと元に戻るだけののです。(1000万円の資産が4割下がって60万円になったとしたら、4割上がった60万円×1.4=84万円にしかなりません。60万円×1.07で、100万円に届きません)

大きな評価損を抱えると、換金しづらい運用先が見つ



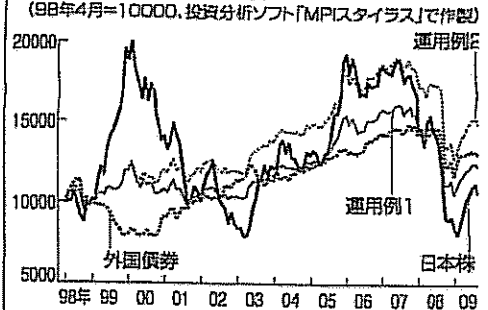
するのにも多大な時間と労力を要し、場合によってはリタイア後の生活設計に支障をきたしかねません。このような取り返しのつかない失敗を防ぐためにも、投資時期の分散はとて大事なことです。

究極の分散分散は「積み立て投資」です。毎月、同じ金額で投資すれば、価格の高低と関係なく口数しか買わないし、価格の低いときには多くの口数を買ってことになるので、高値つかみの危険がなくなります。表のように平均購入単価も下がることがあります。たとえ当面は使わない預貯金が多くあり、望ましい運用先が見つ

■積み立て投資の例(①)

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	購入口数	購入金額	平均購入単価
購入するものの価格	1万円	9千円	1万3千円	9300円	1万5000円			
10口ずつ買えば	10万円	9万円	13万円	9.3万円	15万円	50口	51万8千円	1万360円
10万円ずつ買えば	10口	11.1口	7.69口	10.76口	6.52口	49.07口	50万円	1万189円

■投資対象別の運用結果(②)



■相対者の資産運用の修正例(③)

	1回目	2回目	3回目	修正後の投資額
バランスファンド300万円	-30万円	-30万円	-30万円	210万円
日本株ファンド	+16万円	+17万円	+17万円	50万円
外国債券ファンド	+123万円	+123万円	+124万円	370万円
新興国株ファンド150万円	-10万円	-10万円	-10万円	120万円
総額450万円		+300万円		総額750万円



具体的には、市場価格が上昇して、その結果、資産全体に占める保有比率が高くなった運用先を一部、解約します。逆に市場価格が下落して、保有比率が高くなった運用先を買い足し、全体の比率を元に戻すのです。これを「リバランス」と言います。実行時には金融機関などへの手数料や税金などのコストがかかるので、頻繁にやる必要はありません。長期の運用

この運用はあくまで「1つの例です。自分にとっての方法を定めるべきか、じっくり考えて、上手にリスクを制御してください。」

具体的には、市場価格が上昇して、その結果、資産全体に占める保有比率が高くなった運用先を一部、解約します。逆に市場価格が下落して、保有比率が高くなった運用先を買い足し、全体の比率を元に戻すのです。これを「リバランス」と言います。実行時には金融機関などへの手数料や税金などのコストがかかるので、頻繁にやる必要はありません。長期の運用

ファイナンシャルエデュケーション
ファイナンシャルプランナー
福田 啓太